

令和4年度広域避難に関する進捗状況

令和4年度広域避難に関する進捗状況

- 令和3年度静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会にて、広域避難に係る協議を着手した。
- 令和4年度は、流域一体型タイムラインの意見交換会および読み合わせ訓練を通じて流域内の連携について議論を行った。広域避難に関する勉強会では、外部から専門家を招き、DIG方式でリスクの共有を図った。
- 令和5年度以降の広域避難に係る検討・対応は右図の流れで実施することを想定している。

○広域避難に係る検討・対応フロー図

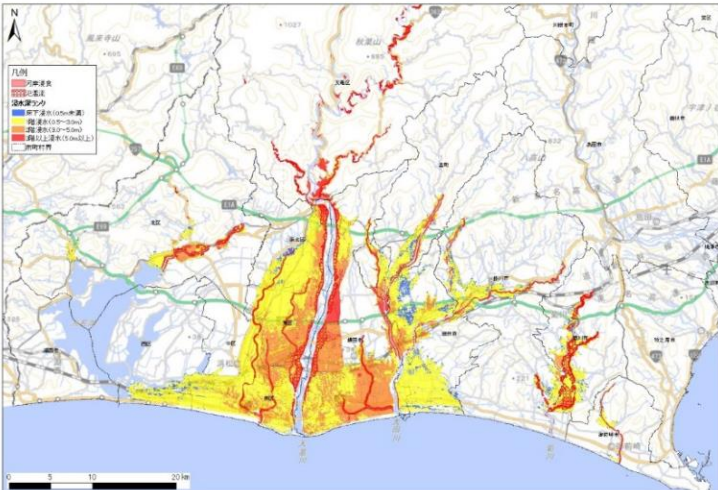
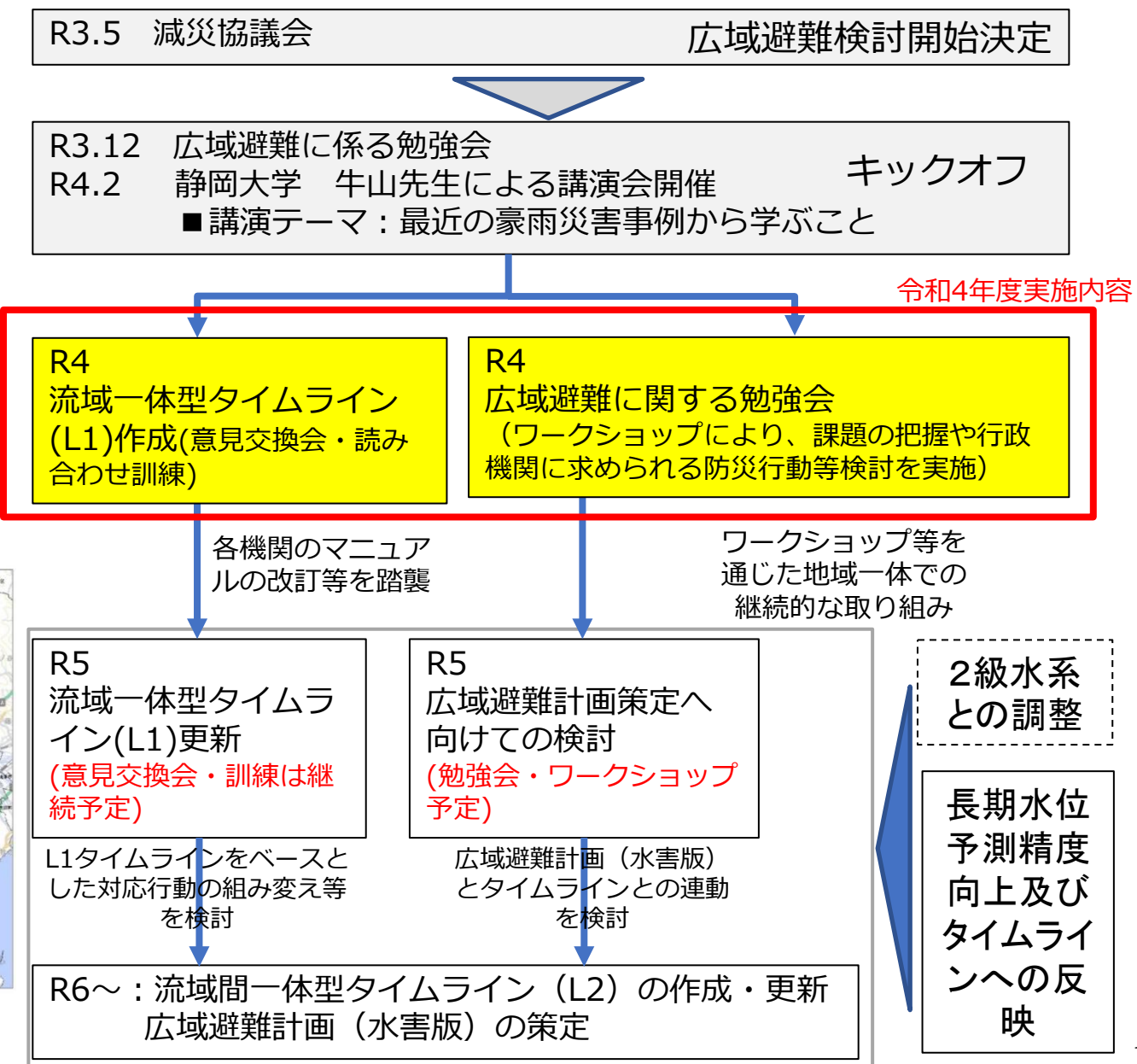


図 静岡県西部・中東遠地域の想定最大規模の浸水想定区域図

天竜川下流、菊川の流域一体型タイムライン作成に向けた意見交換会等を実施

令和4年10月12日、静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会の取組として、天竜川下流域と菊川流域の**流域一体型タイムライン作成に向けた意見交換、広域避難に係る情報提供**を行いました。関係機関の防災担当者が集結し、大雨時の対応行動の確認と顔の見える関係構築を行いました。

- 【開催概要】**
- 日 時：令和4年10月12日（水） 9:30～12:00
 - 会 場：国土交通省浜松河川国道事務所 2階会議室
 - 参加者：天竜川下流域・菊川流域の関係7機関11名
（浜松市、菊川市、掛川市、浜松土木事務所、袋井土木事務所、西部地域局、浜松河川国道事務所）
 - 開催テーマ：「地域特性を踏まえた、各機関が連携を図ることができる流域一体型タイムラインを考える」
 - ①流域のリスク(地域特性)を考える
 - ②流域一体型タイムラインを考える
 - 実施内容：1. 流域一体型タイムラインの検討方針
2. ワークショップ(天竜川下流域と菊川流域に分かれて)
3. 結果発表及び意見交換
4. 広域避難におけるガイドラインと先行事例の紹介

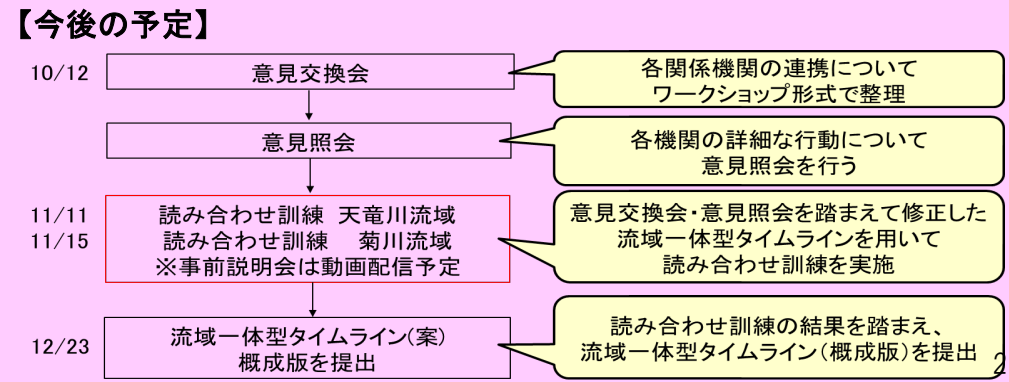
【開催結果の概要】
天竜川下流域と菊川流域の浸水特性などを関係機関で再確認した上で、流域一体型タイムラインに係る防災行動等について意見交換しました。



【流域一体型タイムライン作成に向けた、ワークショップの結果概要】

項目	ワークショップによる主な意見
①流域のリスク(地域特性)を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ R4.9豪雨の避難指示発令時には、小河川の内水氾濫等により避難ルートが浸水していた可能性が高い。 ・ 河川を渡らないと逃げ遅れの恐れがある地域が存在。広域避難検討時に、ボトルネック箇所への対応を要検討。
②流域一体型タイムラインを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洪水時の切迫した状況でWeb会議を有効に活用するためには、関係機関の良好な関係構築が重要である。 ・ 適切な避難情報を発令するためには、判断基準の考え方とそのために必要な備えが重要である。 ・ 適切なタイミングでリエゾン派遣を行うため、市町からも国・県への派遣要請を実施して欲しい。 ・ Web会議を活用して、避難指示や避難所開設のタイミング等を近隣市町と情報共有することが必要である。 ・ 避難指示等の判断には、精度の高い雨量や水位の予測情報の提供が必要である。

流域一体タイムライン(素案)に反映



天竜川下流・菊川流域で流域一体型タイムライン策定に向けた読み合わせ訓練を実施

令和4年11月11日(天竜川下流域)・11月15日(菊川流域)に、静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会の取組として、天竜川下流域の**流域一体型タイムライン策定に向けた読み合わせ訓練を行いました**。関係機関の防災担当者が集結し、大雨時の初動の確認・支川氾濫・本川の水位上昇時の対応行動の確認を行いました。

【開催概要】

	天竜川下流域 (想定:前線+台風)	菊川流域 (想定:集中豪雨)
日時	令和4年11月11日(金) 9:00~12:00	令和4年11月15日(火) 9:00~12:00
会場	国土交通省浜松河川国道事務所 3階会議室	
参加者	5機関10名(浜松市、磐田市、静岡県西部地域局、静岡県浜松土木事務所、浜松河川国道事務所)	6機関9名(菊川市、掛川市、静岡県西部地域局、静岡県袋井土木事務所、浜松河川国道事務所、中部地方整備局河川部水災害予報センター)
実施内容	流域一体型タイムラインを考慮した対応行動整理表の読み合わせ訓練	
確認内容	1. Web会議の開催(基準・タイミング・方法等) 2. 排水ポンプ車の派遣 3. ホットラインの合同開催・「もよう情報」の発令・エリアメールの発信	

【流域一体型タイムライン策定に向けた、読み合わせ訓練の結果概要】

項目	読み合わせ訓練による主な意見	
	天竜川下流域	菊川流域
① Web会議の開催	Web開催の内容やタイミング等9月の災害を踏まえた具体的な意見を共有 開催規準は、 天竜川上流部の長野県の降雨も考慮する必要がある。 ・開催のタイミングは、 台風説明会の後、もしくは台風最接近の2日前 が挙げられる。 ・ 気象・水文情報に加えてリエゾンの派遣等の各機関の連携項目を確認する。	・開催のタイミングは、 1日前の雨量予測や水位予測の精度及び、市の体制や避難に関する対応等も決まっていない状況を考慮し、フェーズ1の最後に実施する。 ・天竜川・菊川では条件が異なるため会議を 個別に実施する。
② 排水ポンプ車の派遣	排水ポンプ派遣の連絡経路および、早めの情報共有の重要性を共有	・排水ポンプ車の手配は、 浜松河川国道事務所の副所長を窓口 に遠慮なく相談して欲しい。 ・ リエゾン派遣については、要請を受けてから派遣するだけでなく、県や国からのプッシュ型での派遣も可能である。
③ ホットライン及びもよう情報の発令等	ホットラインのメリット・デメリットを共有	・ホットラインは残しながらも、 国や市町に加えて土木事務所等の県の実務者で合同のWeb会議 をすることで情報共有を行うことが出来る。 ・本川の対応時は、各機関が多忙であるため 平時から合同Web会議開設の手順等を決める必要がある。 ・「もよう情報」発令に係る情報を収集するため、各機関に被害状況など 情報共有 をお願いしたい。
④ その他	・広域避難は、考え方やトリガーがまとまっておらず、 支川の氾濫前に避難を考える必要がある。内水氾濫が発生した時に避難を推奨する事は非常に難しい。	・エリアメールについては、 各自治体にホットライン等で連絡した上で、地域の運用を基に発出する。 ・ 避難開設のタイミングをWeb会議で確認する。

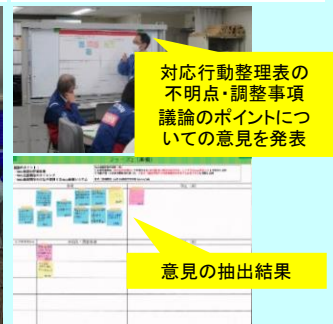
【開催結果の概要】

タイムラインの具体的な行動をまとめた「対応行動整理表」の読み合わせ訓練を通じて、流域一体型タイムラインの基本的な行動や連携の確認や新規に提案したWeb会議など、流域の災害特性を踏まえた実効性向上のための行動内容について意見交換を行った。

読み合わせ訓練の様子(左:11月11日・右:11月15日)



整理結果(一例)



意見をふまえ**流域一体型タイムライン(素案)に反映** 3

広域避難計画策定に向けた勉強会を実施

令和5年2月9日、静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会の取組として、**広域避難計画策定に向けた勉強会**を行いました。**常葉大学小村准教授**をお招きし、DIG(災害図上訓練)を通じて広域避難が求められるワーストケースの把握および行政機関に求められる防災行動等を検討しました。

【開催概要】

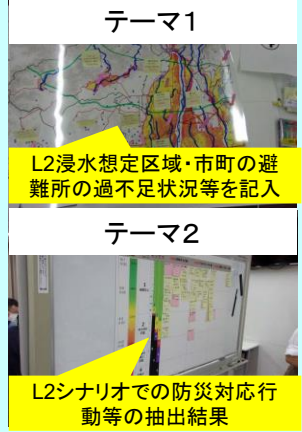
- 日時: 令和5年2月9日(木) 13:00~16:00
- 会場: 国土交通省浜松河川国道事務所 2階会議室
- 参加者: 天竜川下流域・菊川流域の関係11機関16名
(浜松市、磐田市、菊川市、掛川市、湖西市、袋井市、御前崎市、静岡県河川砂防局、西部地域局、浜松土木事務所、浜松河川国道事務所)
- 開催テーマ: ①静岡県西部・中東遠地域の広域避難が求められるワーストケースを考える
②時間の経過と共に周囲の状況が変化する様子を理解し、各段階で行政機関に求められる「状況先取りした」対応を検討する
- 実施内容: 1. 広域避難に関する情報提供
2. DIG(災害図上訓練)
3. 意見交換・ふりかえり

【To Doリストへの記載内容(抜粋版)】

時間	住民に期待する行動	自機関の行動および他機関と連携して欲しい行動
72~48時間前	・ 情報収集および要配慮者の状況を踏まえた 避難に向けた準備	・ 情報収集/資機材の点検/協定先との連絡/市民への広報等に備えた 体制の構築
48~24時間前	・ 縁故避難 /(地域によっては) 指定避難所への避難開始 (36時間前)	・ 避難所の開設準備/開設 ・ 災害対策本部等の設置 ・ リエゾン派遣依頼
24~0時間前	・ 指定避難所への避難および垂直避難の実施	・ 被害状況の監視/把握 ・ 首長等との情報共有

【開催結果の概要】

天竜川左右岸に分かれて、L2想定各河川の浸水想定区域等をDIGを通じて関係機関で把握しつつ、各段階で求められる防災対応行動についてTo Doリストの作成を通じて検討した。また、広域避難のあり方やそのトリガー、避難所開設の判断等について意見交換を実施した。



【意見交換結果概要】

- (防災対応行動整理事例の共有)
- ・ 袋井市では、**台風接近5日前からの対応行動がルール化**されている。(広域避難のトリガー)
 - ・ **水管理・国土保全局と気象庁の合同会見**は災害発生の危険性が非常に高い場合に実施されるので、**一つのトリガーとなりうる**。
 - ・ 気象庁では48時間先までの予測雨量を出しているが、河川毎に計画雨量が異なるため、河川毎に対応を判断する必要がある。**天竜川では2日間で550ミリ前後の予測雨量**が一つの目安になる。(避難の優先度や浸水域内避難所の開設基準)
 - ・ 昨年9月末に公表された**多段階浸水想定区域図**を用いて、**洪水の頻度に応じて避難の優先度を決め、避難所開設の可否の判断材料とすることも考えられる**。(民間企業との協定締結)
 - ・ **複数の自治体**で民間企業との災害時における**駐車場やトイレ等の提供**に関する協定締結に向けた動きが進んでいる。